



道場は家、師は親、同門の弟子は兄弟

今年5月の剣道八段審査で見事合格された、長井 祐二先生にお話を伺いました。



全ての方のおかげです

この度、令和六年五月一日、剣道八段審査におきまして合格させていただきました。

これもひとえに、今までご指導いただきました沢山の先生方、一緒に汗を流し稽古をお願いした方々、少年剣士にいたるまで全ての方のおかげです。心から感謝し、御礼申し上げます。



私が剣道を始めたのは小学校三年生の時で、熊本県の家近所にあった興風館道場に入門したのが始まりです。

その後、鎮西高校、大阪体育大学へ進学し、素晴らしい先生方、同期や先輩・後輩との出会いがあり、大きく成長させていただきました。

原点は熊本・興風館道場

約六十年の剣道人生の原点はやはり初めて竹刀を握った興風館道場です。この道場は大阪府警を退職された古荘義廣先生が開かれた道場です。私が初めて八段審査に挑戦した時には既に先に八段を合格された道場の先輩が三人おられました。

(故) 坂田良一先輩 (大阪)

田邊秀昭先輩 (熊本)

笠村浩二先輩 (神奈川県)

私はこの三人の先輩方に続いて興風館道場の門弟として四人目の八段になりたいという思いで自己を見直しながら稽古に励みました。

道場は家、師は親、同門の弟子は兄弟

私は自分の剣道の原点である興風館道場を誇りに思っています。

道場は家であり、厳しくも温かく優しい師は親、同門の弟子は兄弟、今でも続いているこの関係を素晴らしいと思っています。



今更ながら剣道の素晴らしさを感じています。

今後、八段合格を謙虚に受け止め、剣道の素晴らしさを伝えていく一助となれるよう努力、精進していきたいと思っています。

(円武 (まるたけ) 武道具勤務 長井 祐二)



「外国人から見た日本の剣道」シリーズ

子供の頃から剣道が日常の一部だったというイタリア生まれイタリア育ちの Bartolomeo Rigolio (通称 メオ)さん。日本に住んで剣道を上達させるという夢を 2019 年に叶え、日々、修道館で稽古に励んでおられるメオさんにご寄稿いただきました。



名前：Bartolomeo Rigolio (通称：メオ)

二十九歳

出身：イタリアの Gallarate
ガッララーテ



2019 年から日本に住んでいます。仕事は NOVA のイタリア語教師です。趣味は剣道と登山と模型作成と読書です。

ここ日本の人たちに私が剣道をやっていると、驚く人が多いです。しかし、私にとって剣道は物心ついた頃から日常の一部でした。

父ルイージが高校時代の友人から剣道を紹介されたのは 80 年代初頭のことでした。当時、この武道は私の国ではごく少数の人しかやっておらず、ほとんど知られていなかったもので、イタリアのインストラクターたちは日本の専門家の貴重な指導を切実に必要としていたのです。

これらの尊敬すべき日本の人々は、セミナーで教えたり、イタリアのインストラクターたちが独自の道場を立ち上げるのを手伝ったりしてくれました。

父は、イタリアに近いフランスの有名で人気のあるセミナーによく行っていたのですが、そこで出会った、岩手県出身で八段の浅見先生を師匠に選びました。

父の強い要望を受け、浅見先生は指導のためにイタリアに来ることにすぐに同意し、たちまち私の故郷であるガッララーテに剣山道場が設立されました。

二人は親友となり、先生は剣山の創立以来毎年イタリアに来るようになりました。私が幼い頃、毎年、いわゆる「浅見シーズン」があったことを覚えています。つまり、我が家の客室が浅見先生によって占められていた 2~3 週間の時期です。

子供だった私の目には、彼は明らかに異国の匂いが漂い、私の知っている言語を一切話さない、謎めいた人物に見えました。一度、彼が机で手紙を書いているときにイタリア語を教えようとしたことを覚えています・・・彼もそれを覚えているかな？

とにかく、父の剣道への情熱と日本の先生とのつながりのおかげで、私は言語、食べ物、文化、マナーなど日本の多くのものに触れましたが、私も剣道を始めたのは 12 歳のときでした。最初からこの武道に夢中になり、それ以来ずっと稽古しています。

17 歳の時、剣道を目的に初めて日本に来ました。それは忘れられない体験でした。数週間後にイタリアに戻り、いつか日本に住んで、剣道を上達させようと心に誓いました。



29 歳になった今、大阪に住むという夢が叶い、修道館道場で稽古ができることはとても幸せで感謝しています。

いつかイタリアの元々の道場に戻って、井上先生と濱口先生だけでなく、この美しい国で出会ったすべての剣道家から学んだことをみんなに教えたいと思っています。

がんばります！

(Bartolomeo Rigolio)

「道場自慢」シリーズ：八尾市剣道協会

道場には、その歴史の中で、その精神や指導理念が先輩から後輩へと脈々と引き継がれることにより、その道場ならではの伝統が培われていっております。

今回は、多彩な行事で交剣知愛の輪を広げておられる八尾市剣道協会をお訪ねしました。

発足から65年

戦後の剣道復活当初、八尾市内の剣道愛好家は、近隣の道場等に出向いて個々に稽古を行っていたのですが、有志の中で徐々に同好会的な組織を立ち上げようという機運が高まり、昭和34年4月20日に八尾市剣道協会が発足しました。同年10月には八尾市体育連盟にも加入し、以降、広く市民に門戸を開きながら、剣道の修練を通じた体育の振興及び青少年の健全育成に寄与すべく活動を積み重ねてきました。



毎日どこかで稽古を実施

現在、会員数は幼児から一般まで総勢約220名であり、当協会の本部教室として位置づけをしているウイング剣道教室をはじめ、計9教室(10ヵ所)にて、それぞれの特色を生かした稽古を行っており、毎日、市内のどこかの体育館で気合の入った声を轟かせています。

【剣道教室の実施場所(9教室・10ヵ所)】

八尾市立総合体育館、南高安小学校、久宝寺小学校、大正小学校、東山本小学校、南山本小学校、曙川東小学校、八尾小学校、用和小学校、龍華小学校

これらの教室での稽古はそれぞれ地元の子どもたちが中心で、多くの一般会員が指導に携わっています。加えて、自身の技能向上と会員間の親睦のため、週2回、総合体育館にて一般会員向けの合同稽古も実施しています。

多彩な行事で交剣知愛

当協会では、主催もしくは主管行事として、「市民大会(春・秋)」、「少年剣道錬成大会・社会人剣道選手権大会(夏)」、「青少年剣道大会(冬)」と年間4大会を開催し、それぞれの大会で、子どもたちが少しでも良い経験を積めるように工夫を凝らした運営に努めています。(下の写真は、錬成大会の一場面)

また、級位審査会は年2回開催しています。

大会及び級位審査会には、各教室だけでなく、市内の中学校剣道部や八尾警察少年剣道推進会にも参加していただいております。子どもたちは、交流を通して友情を育んでいます。

その他、当協会は、中河内地区剣道普及協会主催の講習会(審判法、剣道形)及び地区内7市の親善大会の会場を担当させていただいております。市域を超えた交流も活発です。

目指すは会員増と生涯剣道

多様なスポーツ競技の普及と人口減少社会を背景に、会員数はピーク時に比べて大きく減っており、持続可能な協会に向けた対策は急務です。

一人でも多くの子どもが剣道に出会えるように、教室個々が、地道に各地域で勧誘活動を行っている他、最近では、市内の子どもたちが複数のスポーツを同時に体験できるイベント「八尾キメラ」(<https://yao-chimera.net>)に参加するなど積極的に普及活動に取り組んでいます。

すべての会員が世代を超えて共に剣道に親しみ、その魅力を共有しながら、生涯を通して稽古を続けることができる受け皿であり続けることが当協会の目標です。

最後になりましたが、当協会の活動は、子どもたちの保護者をはじめ、多くの方のご協力により支えられており、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

(八尾市剣道協会事務局 柏原 孝至)



交剣知愛

八尾市剣道協会



facebook

あるある「行きすぎた指導」防止キャンペーン ～コーチング

6月号外 (Vol.30) でもご紹介しましたように、大阪府剣道連盟では、「あるある「行きすぎた指導」防止キャンペーン」を実施しています。その一環として、指導者に求められるスキルとしての「コーチング」を採り上げ、2025/2/8 (土) にスポーツ心理学の第一人者である土屋裕睦先生によるご講演を予定しています。

◆コーチ・・・COACH

有名な革製品のブランド「COACH」のマークには馬車が添えられていますね。



御者が鞭を持っているのが気になりますが・・・

コーチングって何ですか？

そうです。コーチという言葉は、もともと「馬車」のことを指し、「大切な人をその人が望むところまで送り届ける」という意味で使われていました。そこから「人の目標達成を支援する」という意味で使われるようになりました。

で、今なぜコーチングなんですか？

いま競技スポーツ界は、「行き過ぎた指導」に対するクレームで炎上しています。ご多分に漏れず剣道界でも、昨年一年間で数十件の保護者や参加者、周囲の関係者からの「行き過ぎ指導クレーム」がありました。しかも大半がスポーツ庁や全日本剣道連盟への、匿名による直接の電話クレームでした。そのうち数件が、我が大阪府剣道連盟関係で、訴えられた側はわかるので、総務委員会（綱紀担当）が中心になって実態調査をしました。

その結果、明らかになったことは「古い指導体質の熱血指導者」と「古い指導体質に慣れない保護者等」の相互理解の場がなく、信頼関係の希薄化が主な原因でした。

で、コーチングって？ (コーチ・エイ アカデミアより)

では「大切な人をその人が望むところまで送り届ける」ために、どうすればいいのか？

コーチングをする人（コーチ）はコーチングを受ける人（クライアント）に、

- ・新しい気づきをもたらす
- ・視点を増やす
- ・考え方や行動の選択肢を増やす
- ・目標達成に必要な行動を促進する

ための効果的な対話を作り出します。ここで重要なのは、コーチがこれらを先導したり強制したりするのではなく、相手が主体性を持ちながらそれを実現するところにあります。

そのため、コーチングでは、基本的に「教える」「アドバイスする」ことはしません。その代わりに、「問いかけて聞く」という対話を通して、相手自身から様々な考え方や行動の選択肢を引き出します。

対話を重ねるコミュニケーションを通してコーチングを受ける対象者が目標達成に必要なスキル・知識・考え方を備え、行動することを支援し、成果を出させるプロセス。

人と組織の可能性を開くために、今リーダーやマネージャーに求められる能力です。

◆では、具体的にどうすればよいのか？

来年2月8日(土)大阪府立労働センター「エル・大阪」において開催する「スポーツ安全講習会」に、スポーツ心理学の第一人者、大阪体育大学教授 土屋裕睦先生（剣道七段）をお招きし、「実践！グッドコーチング：新しい時代に求められる指導法」と題してご講演をいただくことにしました。土屋先生は、プロスポーツチーム（野球・サッカー・ラグビー・卓球）や日本代表チームにてメンタルトレーニング指導を約30年にわたりご担当。

パリ2024オリンピック大会には日本選手団の安全・安心を守るウェルフェアオフィサーとして帯同されておられます。また、選手の心理相談の他、コーチデベロッパー（コーチのコーチ）として、公認指導者育成事業にも尽力されておられます。

12月に入りましたら、連盟のホームページに詳細をご案内いたしますので、多数のご参加をお待ちしています。

(大阪府剣道連盟総務委員長 北端 浩三)